

通し番号	5150
------	------

分類番号	R04-24-12-9
------	-------------

イチゴ‘かなこまち’の土耕栽培における株間が収量、糖度に及ぼす影響	
[要約] ‘かなこまち’の土耕栽培において、株間が20cmから30cmの範囲では広いほど頂果房の開花及び収穫が早く、第一腋果房の収穫始期も早い。1株当たり可販果収量は、株間が広いほど多いが、単位面積当たり可販果収量は、株間が狭いほど多い。糖度は株間30cmで、株間20cm及び25cmより平均糖度が高くなる。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

株間は、単位面積当たりの収量や品質に影響することが知られているが、当所育成品種の‘かなこまち’については明らかになっていない。そこで、土耕栽培における株間が収量や品質に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 株間が広いほど頂果房の開花始期が早く、頂果房及び第一腋果房の収穫始期が早い。株間30cm区は、株間20cm区より頂果房、第一腋果房の収穫始期がいずれも約10日早い(表1)。
- 2 株間が広いほど1株当たりの総果数及び1株当たりの可販果収量が多くなるが、10a当たりの可販果収量は、株間が狭いほど多い傾向である。なお、10a当たり早期収量は、株間25cm区が最大で、株間30cm区は2月の可販果収量が少ない(表2、図1)。
- 3 糖度は株間30cm区が高く、収穫期間を通じて10°以上で推移する。一方、株間20cm区は4月の糖度が株間30cm区に比べて低くなる(表3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 花芽分化日は9月17日で、9月21日に定植した。
- 2 施肥は、基肥として成分量N:P:K=15:22:15kg/10a、追肥として液肥で窒素成分0.5kg/10aを11月下旬から約4週間毎に計4回施用した。
- 3 定植は、畝間130cmの2条植えの土耕栽培(電照なし)、収穫調査は5月31日まで実施し、単位面積当たりの収量は、栽植本数を株間20cm区が7,692株/10a、株間25cm区が6,153株/a、株間30cm区が5,128株/aとして試算した。
- 4 芽の管理は、地中から発生する芽(ドロ芽)及び下位葉から発生する弱い脇芽は切除し、それ以外の芽は放任としている。

[具体的データ]

表1 株間が開花始期及び収穫始期に及ぼす影響

試験区	頂果房	頂果房	第一腋果房
株間	開花始期 ^z	収穫始期 ^y	収穫始期 ^y
株間20cm	11月16日	12月24日	2月8日
株間25cm	11月12日	12月17日	2月4日
株間30cm	11月10日	12月14日	1月28日

z: 調査株の過半数が開花した日
y: 調査株の過半数が収穫を開始した日

表2 株間が収量に及ぼす影響

試験区	総収量	総果数	可販果 ^z	早期	1株当たりの
株間	(t/10a)	(個/株)	収量	収量 ^y	可販果収量
			(t/10a)	(t/10a)	(g/株)
株間20cm	7.4	59.8 b	7.0	2.3	916 b
株間25cm	6.8	70.4 ab	6.4	2.6	1040 ab
株間30cm	6.6	81.4 a	6.3	2.2	1224 a
分散分析 ³	-	*	-	-	*

z: 7g以上のA品及びB品を可販果とした。
y: 12月～2月の可販果収量の合計。
x: 分散分析により*は1%水準で有意差あり、tukey検定により、異なる英文字間で1% 水準で有意差あり。-は未検定。

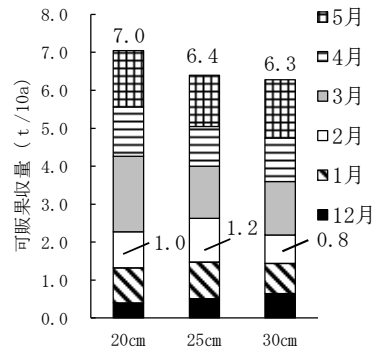


図1 株間が可販果収量に及ぼす影響

表3 株間が糖度に及ぼす影響

試験区	糖度 (° Brix) ^z						平均
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
株間20cm	10.0 a ^y	10.3 a ^y	10.6 a ^y	9.3 a ^y	8.5 b ^y	9.1 a ^y	9.6 b ^y
株間25cm	9.7 a	10.2 a	9.5 a	9.6 a	9.8 ab	10.3 a	9.8 b
株間30cm	10.8 a	10.5 a	11.7 a	10.1 a	10.3 a	10.5 a	10.7 a
分散分析 ^x	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	*	n. s.	*
参考 ^w	9.8	10.4	9.9	9.8	8.6	8.9	9.6

z: 各月の中旬～下旬に採取した4～9検体の平均値
y: Tukey-Kramer法により、異なる英文字間に5%水準で有意差あり
x: 分散分析により、*は5%水準で有意差あり、n. s.は有意差なし
w: とちおとめ (株間25cm)

- [資料名] 令和4年度試験研究成績書
- [研究課題名] 肥培管理技術の開発 ～株間の検討(土耕栽培)～
- [研究期間] 2021(令和3)年度～2025(令和7)年度
- [研究者担当名] 下 菌 健志
- [協力・分担関係]